

広島市スポーツ振興計画（素案）
～ “新しい「スポーツ王国広島」” を目指して～

目 次

第1章	計画策定の基本的な考え方	
1	計画の趣旨	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画期間	1
第2章	計画策定の背景	
1	社会環境の変化とスポーツ	2
2	広島市のスポーツの現状	4
3	広島市のスポーツ振興における課題	13
第3章	基本理念とその実現に向けて	
1	基本理念	14
2	基本方針及び目標年度の数値目標	14
第4章	推進施策	
1	施策の体系	16
2	施策の内容	17
第5章	計画の推進	25

第1章 計画策定の基本的な考え方

1 計画の趣旨

健康増進や体力の向上等に対する市民意識の高揚、広島東洋カープやサンフレッチェ広島に対する応援気運の盛り上がりなどにより、近年、市民のスポーツ・レクリエーションに対する関心が高まっています。

広島市は、これまで第12回アジア競技大会の開催や各種スポーツ施設の整備、市民のスポーツ・レクリエーション活動に対する支援やスポーツ指導者の養成など、様々なスポーツ振興施策の推進を図ってきました。

今後は、子どもから高齢者、障害者や健常者、初心者からトップアスリートまですべての市民が様々なスポーツにかかわり、生きがいを感じることができるよう、多様化する市民のニーズを把握し、市民のスポーツ・レクリエーション活動の促進や競技力の向上、国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致などに取り組む必要があります。

これらの取組をより一層効果的・効率的に推進するため、広島市のスポーツ振興施策を総合的かつ体系的に定める広島市スポーツ振興計画を策定します。

2 計画の位置づけ

- (1) この計画は、スポーツ振興法（昭和36年法律第141号）に基づく広島市のスポーツ振興に関する計画です。
- (2) この計画を第5次広島市基本計画のスポーツ振興分野に関する部門計画として位置づけます。

3 計画期間

目標年度は、第5次広島市基本計画と合わせ、平成32年度(2020年度)とし、計画期間は、平成23年度(2011年度)から平成32年度(2020年度)までの10年間とします。

また、中間年には進捗状況を踏まえ計画の見直しを行います。

第2章 計画策定の背景

1 社会環境の変化とスポーツ

スポーツは、体力の向上や生活習慣病の予防、精神的ストレスの発散など健康の保持増進につながるとともに、明るく豊かで活力に満ちた、生きがいのある社会の形成に寄与します。このようなスポーツは、次のような社会環境の変化に伴い、様々な意義と効果が期待されます。

(1) 少子化・高齢化の進展

平均寿命が延びるとともに出生率が低下して、高齢者人口の増加と年少人口の減少が進むことにより、平成32年(2020年)には、広島市の全人口の26.1%が65歳以上の高齢者となり、同時に14歳以下の年少人口が13.1%まで低下することが予測されています(表1参照)。

こうした中、少子化の進展が学校運動部活動への参加生徒数の減少をもたらすなど、競技力の低下が懸念されており、学校やスポーツ関係団体等が連携し、子どもの体力・運動能力の向上に取り組むことが求められています。

また、高齢化の進展により、高齢者がスポーツを通じて健康を維持し、生き生きとしたセカンドライフを送ることへの支援が求められています。

表1 年齢階層別人口

区 分	平成22年 (2010年)	平成32年 (2020年)
年少人口 0～14歳	17.0万人(14.5%)	15.4万人(13.1%)
生産年齢人口 15～64歳	77.5万人(66.0%)	71.8万人(60.9%)
老年人口 65歳以上	23.0万人(19.6%)	30.7万人(26.1%)
総人口	117.5万人(100.0%)	117.9万人(100.0%)

注1 資料は第5次広島市基本計画であり、各年の基準は10月1日です。

注2 ()内の数値は総人口に対する割合であり、端数処理のため総数と内訳の合計は一致していません。

(2) 価値観の多様化

個人の価値観が多様化し、生きがいや様々な社会参加を求める市民が増えています。

こうした中、スポーツを通じて爽快感や楽しさを味わうこと、健康の保持増進、さらには社会貢献など市民が様々な形でスポーツにかかわる環境を整えることが求められています。

(3) 地域の連帯感の希薄化

都市化の進展などにより、地域におけるコミュニケーションが減少し、地域の連帯感が希薄化しています。

こうした中、日頃行うスポーツや町内運動会等の地域スポーツ活動への参加など様々な場面で地域の幅広い人たちが気軽に参加し、互いに心を通わすことのできる機会を提

供することが求められています。

(4) 国際化の進展

情報通信技術（ICT）の進展や人・物・情報の交流が深化することにより、行政や民間などの団体レベルだけでなく、個人レベルでも多様な国際交流が進んでいます。

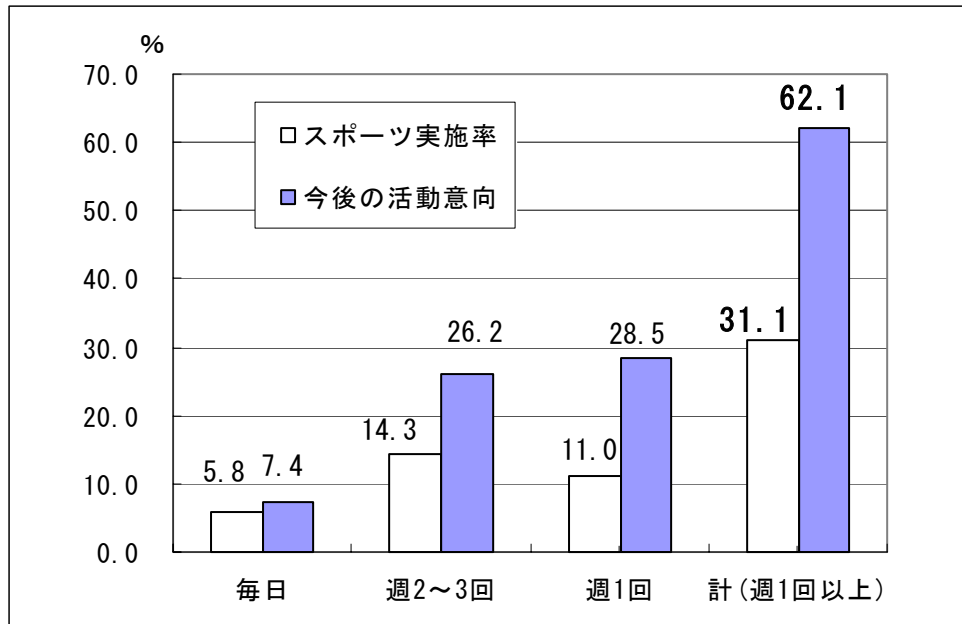
こうした中、スポーツを通じて、国際的な友好・親善、さらには世界平和に貢献することが期待されています。

2 広島市のスポーツの現状

(1) 市民のスポーツ実施状況

広島市が平成 21 年度(2009 年度)に市民及び市内の市立小・中・高等学校の児童生徒を対象に実施した「スポーツに関する意識調査」(以下「意識調査」という。)では、市民の週 1 回以上のスポーツ実施率が 31.1%、今後の活動意向が 62.1%とその差は 31 ポイントとなっており(図 1) スポーツをしたいと思っているが、実際にするところまで至っていない人が多い状況にあります。

図 1 市民のスポーツ実施率と今後の活動意向



意識調査では、市民が運動・スポーツをしていない理由として、1 位が「時間がないから」(19.2%)、2 位が「機会がないから」(17.8%)、さらには「きれい、苦手」(11.4%)といったスポーツ自体に関心がない人もいるなど、スポーツをしていない理由は多岐にわたっています。

意識調査では、市民が運動・スポーツを行う理由・目的の 1 位が「健康・体力づくりのため」(40.9%)であり、多くの市民が健康づくりや体力づくりに関心を持っています。

意識調査では、これからのスポーツ振興のあり方として市民が「大切」と答えた割合が高い項目は、1 位が「高齢者、障害者が参加しやすいスポーツ環境の整備」(79.5%)、2 位が「地域スポーツクラブの育成など、市民が日常的にスポーツに親しめる環境づくり」(76.4%)、3 位が「運動・スポーツ施設の整備、充実と有効活用」(73.9%)となっており、誰もが気軽に運動・スポーツに親しめる環境が求められています。

さらに、「市民が気軽に参加できるイベントの増加、内容の充実」が「大切」と答えた市民の割合が 66.0%であり、運動・スポーツを「みんなとやりたい」と答えた市民

の割合も 50.4%であるなど、スポーツを通じて人とふれあえる機会や場が求められています。

(2) スポーツ施設

広島市では、市民のスポーツ活動の場として、区スポーツセンターなどスポーツ施設を整備するとともに（表 2）学校体育施設の開放（平成 21 年度(2009 年度)：小学校 140 校中 138 校、中学校 64 校中 60 校、高等学校 8 校中 1 校）に取り組んできました。

意識調査では、市民がよく利用する施設として「プールを含む区スポーツセンター」（20.4%）が最も多く、次に「運動広場・公園、グラウンド」（13.0%）となっています。区スポーツセンターは、今後も利用したい施設の 1 位（27.0%）にもなっており、市民にとって最も身近な地域スポーツの活動拠点となっています。

表 2 広島市所管のスポーツ施設（平成 22 年度(2010 年度)）

区 分	スポーツ施設	公園内のスポーツ施設	その他	計
グラウンド・運動場	・戸坂運動広場等 (24 箇所)	・竜王公園等(28 箇所)		52 箇所
野球場	・市民球場	・寺迫公園野球場等 (5 箇所)		6 箇所
陸上競技場		・広域公園陸上競技場 ・同 補助競技場		2 箇所
球技場	・中央バレーボール場	・広域公園第一球技場 ・同 第二球技場		3 箇所
テニスコート	・中央庭球場等(11 箇所)	・広域公園テニスコート等(25 箇所)		36 箇所
体育館	・区スポーツセンター体育室(10 箇所) ・吉島体育館等(3 箇所)	・瀬野川運動公園体育室	・サンプラザホール ・心身障害者福祉センター体育室	16 箇所
プール	・総合屋内プール ・区スポーツセンタープール(9 箇所)	・中央公園ファミリープール	・心身障害者福祉センタープール	12 箇所
柔剣道場	・区スポーツセンター(2 箇所)			2 箇所
弓道場	・区スポーツセンター			1 箇所
トレーニング室	・区スポーツセンター等(10 箇所)			10 箇所
クアハウス	・クアハウス湯の山			1 箇所

区スポーツセンター等の利用促進については、次のような市民サービスの向上に努めながら、施設ごとの年間利用者数を増やす目標を掲げて取り組んでおり、平成 21 年度については、施設全体の利用者数の目標を 10,182 人上回りました(達成率 100.5%、表 3)。

8区のスーポーツ施設を2グループに分けた休館日の設定
 祝日に係る開館日の拡大や夏季における開館時間の延長
 スポーツに関する指導・助言・相談事業の拡充
 競技力向上を目的とした練習時間確保のための臨時開館 など

しかしながら、意識調査では、運動・スポーツをする場合に解決してほしいことの1位は「使いやすい施設や場所」(29.1%)となっており、より一層利用者の視点に立った施設運営に努めることが求められています。

表3 区スポーツセンター等の利用者数(平成21年度(2009年度))

区分	目標数値 (A)	実績数値 (B)	差引 (B - A)	達成率 (B ÷ A)
総合屋内プール	154,000人	157,045人	3,045人	102.0%
区スポーツセンター	1,770,000人	1,777,137人	7,137人	100.4%
計	1,924,000人	1,934,182人	10,182人	100.5%

(3) 運動・スポーツクラブ

意識調査では、これからのスポーツ振興のあり方として「地域スポーツクラブの育成など、市民が日常的にスポーツに親しめる環境づくり」が「大切」と答えた市民の割合は76.4%であり、また、学校や地域の運動・スポーツクラブに必要なものとして最も多かったのは「いろいろな種目や楽しみのあるクラブ」(23.1%)となっており、地域で気軽に参加できる運動・スポーツクラブが求められています。

身近なスポーツクラブの一つに小学校区単位で組織された学区体育協会がありますが、そのクラブ・同好会に加入している人の割合は全市人口の2.7%に過ぎず、学区体育協会が主催する行事への参加率も17.0%と多くの人に参加しているとは言えない状況となっています(表4)。

表4 学区体育協会の活動状況(平成21年度(2009年度))

団体数		136団体
活動内容	クラブ・同好会活動	バレーボール、バドミントン、卓球、ソフトボール、グランドゴルフ、ソフトバレーボール、ソフトテニス、ゲートボール、剣道 ほか
	スポーツ・レクリエーション行事等開催	町民体育祭・運動会、各種球技大会 ほか
	スポーツイベントへの協力	広島市スポーツ・レクリエーションフェスティバル、区民スポーツ大会、全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 ほか
住民参加状況		クラブ・同好会加入率 2.7% 行事参加率 17.0% 広島市人口(平成22年(2010年)3月末)に対する割合である。

資料)平成21年度学区体育団体スポーツ振興事業実績報告書

(4) スポーツ活動にかかわる人材

地域におけるスポーツ活動を支える人材として、広島市ではスポーツ振興法に基づき、スポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導・助言、スポーツ行事等への協力を行う体育指導委員を小学校区に配置しています(平成22年(2010年)4月1日現在:389人(定数404人))。

意識調査では、体育指導委員の認知度は43.3%で、運動・スポーツの指導をしてもらうことが多い人として「体育指導委員」と答えた市民の割合は僅か4.0%となっており、体育指導委員に関する情報の不足などにより市民が気軽に体育指導委員を活用できていない状況がうかがえます。

また、積極的に活動している体育指導委員がいる一方で、1か月の平均活動日数が4日以下の体育指導委員が31.2%となっており、活動状況に不均衡が生じています(表5)。

表5 体育指導委員の活動状況(平成21年度(2009年度))

1か月の平均活動日数	人数(割合)
15日以上(週3回以上)	19人(4.9%)
10日~14日(週2回以上)	59人(15.1%)
5日~9日(週1回以上)	191人(48.8%)
0日~4日	122人(31.2%)
計	391人(100.0%)

地域におけるスポーツ指導やスポーツイベントの運営協力などスポーツ活動を支える人材として重要な役割を担っているのがボランティアの存在です。

意識調査では、これからのスポーツ振興のあり方として「スポーツイベントボランティアの育成、支援」が「大切」と答えた市民の割合は60.4%であり、また、22.3%の市民がスポーツボランティア活動をしたいと答えています。

一方、意識調査では、実際にスポーツボランティア活動をした市民の割合は6.0%と少ない状況であり、スポーツボランティアに対する市民の意識は高いものの、実際に活動するまでに至っていない状況です。

(5) 子どもの体力・運動能力

広島市では、学校におけるDoスポーツ体育指導者招へい事業や運動部活動への外部指導者の招へいなどを通して、子どもがスポーツの楽しさを味わうことにより自発的にスポーツに親しむことができるよう取り組んでいます。

また、地域における子どものスポーツ活動の機会を増やすため、広島市スポーツ少年団や広島市小学生体育連盟の活動促進に取り組んでいます。

意識調査では、62.9%の児童生徒が運動・スポーツを「するのもみるのも好き」と答えており、運動・スポーツへの関心度は高いものの、新体力テストの結果を見ると、表6のとおり、平成21年度(2009年度)の広島市平均が平成20年度(2008年度)の全国平均と比較して「同じか、上回る」種目の割合は、小学校で24.0%(23/96種目)、中

学校で 29.6% (16 / 54 種目)、高等学校で 59.3% (32 / 54 種目)と小学生及び中学生の体力が全国平均レベルを大きく下回っています。

表 6 平成 21 年度(2009 年度)の広島市平均が平成 20 年度(2008 年度)の全国平均と比較して「同じか、上回る」種目の割合(男女計)

	年齢(学年)	割合(種目数)		年齢(学年)	割合(種目数)
市立小学校	6 歳(1 年生)	6.3% (1/16 種目)	市立中学校	12 歳(1 年生)	22.2% (4/18 種目)
	7 歳(2 年生)	25.0% (4/16 種目)		13 歳(2 年生)	44.4% (8/18 種目)
	8 歳(3 年生)	6.3% (1/16 種目)		14 歳(3 年生)	22.2% (4/18 種目)
	9 歳(4 年生)	25.0% (4/16 種目)		計	29.6% (16/54 種目)
	10 歳(5 年生)	56.3% (9/16 種目)	市立高等学校	15 歳(1 年生)	50.0% (9/18 種目)
	11 歳(6 年生)	25.0% (4/16 種目)		16 歳(2 年生)	61.1% (11/18 種目)
	計	24.0% (23/96 種目)		17 歳(3 年生)	66.7% (12/18 種目)
			計	59.3% (32/54 種目)	

(6) スポーツの競技力

広島市の競技力が向上して地元出身のスポーツ選手が全国規模の大会で活躍することは、市民に夢と感動を与えます。

広島市では、競技団体と学校運動部等の連携による素質・能力のあるジュニア選手の発掘、強化合宿の開催や遠征、さらには指導者の養成等により、ジュニア選手の育成・強化を図ってきました。

意識調査では、これからのスポーツ振興のあり方として「スポーツ競技力の向上」が「大切」と答えた市民の割合は 65.9%であり、国民体育大会に出場する広島市の選手の割合は広島県全体の約 44%を占めています。

しかし、国民体育大会の広島県の総合順位は平成 8 年(1996 年)以後、8 位以内の目標を達成できておらず、特に少年の部の低迷が続いています(表 7 参照)。

一方で、意識調査では、児童生徒が運動・スポーツに関して求める情報として「競技のルールや練習方法」が 32%、スポーツの指導をしてもらいたい人として「プロのコーチ」が 32.9%と最も高く、上手くなりたいという意識の高さがうかがえます。

表 7 最近 5 年間の国民体育大会における広島県の順位と広島市の選手の割合の推移

区分	平成 17 年 (2005 年)	平成 18 年 (2006 年)	平成 19 年 (2007 年)	平成 20 年 (2008 年)	平成 21 年 (2009 年)	平均
総合の部	9 位	13 位	18 位	13 位	11 位	
成年の部	6 位	8 位	13 位	12 位	6 位	
少年の部	17 位	24 位	27 位	20 位	25 位	
広島市の選手の割合	43.2%	49.2%	41.4%	43.6%	43.3%	44.2%

(7) トップレベルのスポーツ

トップレベルのスポーツを観戦することは、市民のスポーツに対する関心や興味を高め、多くの市民がスポーツをする動機づけになるとともに、人が集まり、動くことで経済への波及効果やまちの賑わいの創出が期待できます。

広島市では、第12回アジア競技大会(平成6年度(1994年度))やひろしま国体(平成8年(1996年))の開催を契機として、スポーツ施設の充実を図るとともに、大会の運営ノウハウの蓄積や大会を支える市民のボランティアの育成など大きな財産を生み出しました。

その後も「JOCパートナー都市協定」の活用などにより、国際的・全国的なスポーツ大会やナショナルチームの強化合宿の誘致に取り組んできました(表8)。

意識調査では、これからのスポーツ振興のあり方として、「国際スポーツ大会などの開催・誘致」や「日本代表チームなどの合宿の誘致」について、半数近くの市民が「大切」と答えています。また、スポーツ競技の国際大会について、関心があると答えた市民が79.4%、児童生徒が77.4%と多くの人が関心を持っています。

表8 主な国際的・全国的なスポーツ大会の開催状況

区分	国際大会		全国大会	
	総合大会	競技大会	総合大会	競技大会
平成18年度 (2006年度)		2006年FIBAバスケットボール世界選手権広島ラウンド 2006バレーボール世界選手権第2次ラウンド広島大会	スポーツマスターズ2006広島大会	レディース陸上競技大会 日本オプティミストセーリング選手権大会
平成19年度 (2007年度)		FIVBワールドカップ2007広島大会(バレーボール)		全日本実業柔道団体対抗大会 レディース陸上競技大会 全日本OP級チームレース選手権大会 全国グラウンド・ゴルフ交歓大会
平成20年度 (2008年度)				全日本OP級チームレース選手権大会 全日本チームレース(スナイプ級)選手権大会 全日本大学対抗卓球選手権大会 全国市役所卓球大会(広島大会) 全国消防親善バスケットボール広島大会 全国フットベースボール大会 全国高等学校スケート競技(フィギュア)選手権大会
平成21年度 (2009年度)		世界剣道選手権大会/世界剣道優勝大会		全日本OP級チームレース選手権大会 全日本チームレース(スナイプ級)選手権大会 全国シニア(60歳以上)サッカー大会/シニア(70歳以上)サッカーフェスティバル 全日本実業団バドミントン選手権大会 日本陸上競技選手権大会 2009ザバースカップ全国選抜リトルリーグ野球大会 JOCジュニアオリンピックカップ全日本卓球選手権大会 全国ミニテニス交流「広島大会」 全日本バトントワリング選手権大会
毎年度開催	織田幹雄記念国際陸上競技大会 ヒロシマ国際ハンドボール大会 アジアカップひろしま国際ソフトテニス大会 ひろしま国際平和マラソン PeaceCup国際交流車いすテニス大会		全国都道府県対抗男子駅伝競走大会(ひろしま男子駅伝) JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアソフトテニス選手権大会 JABA広島大会(野球) ソフトテニス日本リーグ	

広島市を舞台に活躍しているプロやトップレベルの企業等のスポーツチームが多数あり、そのチーム数と競技力は全国トップレベルです(表9)。

これらのトップスポーツチームは、「すべての広島の人々が、すべての広島のスポーツ(チーム・選手)を応援するような、郷土愛ふれる広島の実現や地域の活性化に貢献する」ことなどを目的に、競技種目の枠を超えて「特定非営利活動法人 広島トップ

スポーツクラブネットワーク（略称：トップス広島）」を平成12年(2000年)4月に設立し、競技活動の傍ら、地域のスポーツの普及・振興にかかわる活動を行っています。

意識調査では、これからのスポーツ振興のあり方として「プロスポーツ（広島東洋カープ、サンフレッチェ広島）の振興」を72.8%、「JTサンダーズなどトップレベルのアマチュアスポーツの振興」を59.6%の市民が「大切」と答えており、多くの市民がトップレベルのスポーツの振興を大切と考えています。

しかし、トップス広島を知っている市民の割合は43.2%で、平成14年度（2002年度）に行った同様の意識調査結果（10.0%）に比べるとトップス広島としての活動が浸透しつつあるものの、知名度や注目度は全般的に高いとは言えません。観戦者数についても、プロスポーツチームである広島東洋カープやサンフレッチェ広島以外は、概ね横ばい傾向となっています（図2、表10）。

トップス広島に加盟しているクラブチーム（平成22年度(2010年度)）

サンフレッチェ広島 / サッカー

JTサンダーズ / バレーボール（男子）

湧永製薬ハンドボール部（ワクナガレオリック） / ハンドボール（男子）

広島メイプルレッズ / ハンドボール（女子）

広島ガスバドミントン部 / バドミントン（女子）

NTT西日本ソフトテニスクラブ / ソフトテニス（男女）

中国電力陸上競技部 / 陸上競技（男子）

コカ・コーラウエストレッドスパークスホッケー部 / ホッケー（女子）

広島東洋カープ / 野球

表9 政令指定都市のプロスポーツチームや企業スポーツチーム等の状況

区分	「トップス広島」加盟チームが参加するリーグ等								その他
	プロ野球	サッカー Jリーグ	バレーボール Vプレミアリーグ	日本ハンドボ ールリーグ	バドミントン 日本リーグ	ホッケー 日本リーグ	ソフトテニス 日本リーグ	全国実業団 対抗駅伝	
札幌市	北海道日本ハムファイターズ	コンサドーレ札幌			JR北海道			ホクレン	レラカムイ北海道(バスケット) JR北海道(卓球)
仙台市	東北楽天ゴールデンイーグルス	ベガルタ仙台			NTTグループ東北 七十七銀行				仙台89ERS(バスケット)
さいたま市		浦和レッズ 大宮アルディージャ						しまむら	
千葉市	千葉ロッテマリーンズ	ジェフユナイテッド市原・千葉						富士通	
横浜市	横浜ベイスターズ	横浜F・マリノス 横浜FC			日立情報通信エンジニアリング			パナソニック	
川崎市		川崎フロンターレ	NECレッドロケッツ						東芝ブレイブサンダース(バスケット) 富士通レッドウェーブ(バスケット) 信号器材(卓球) 東信電気(卓球)
相模原市									
新潟市		アルビレックス新潟						新潟アルビレックススランニングクラブ	新潟アルビレックス BB(バスケット)
静岡市		清水エスパルス							シャンソン化粧品シャンソンVマジック(バスケット)
浜松市								スズキ ユタカ技研	浜松・東三河フェニックス(バスケット)
名古屋市	中日ドラゴンズ	名古屋グランパスエイト		大同特殊鋼HC名古屋	ジェイテクト	名古屋フラテル	東邦ガス		三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ(バスケット) トヨタ自動車アンテロープス(バスケット) 三菱電機コアラーズ(バスケット)
京都市		京都サンガF.C.					立命館大学 京都市役所 京都信用金庫	ワコール	京都ハンナリーズ(バスケット)
大阪市	オリックス・バファローズ	セレッソ大阪	JTマーヴェラス					NTT西日本 大阪府警	近鉄ライナーズ(ラグビー) 日本生命(卓球) 大阪エヴェッサ(バスケット)
堺市			堺ブレイザーズ						
神戸市	オリックス・バファローズ	ヴィッセル神戸	久光製薬スプリングス					ノーリツ	神戸製鋼コベルコスティーラーズ(ラグビー)
岡山市		ファジアーノ岡山	岡山シーガルズ					天満屋	
北九州市		ギラヴァンツ北九州						安川電機	
福岡市	福岡ソフトバンクホークス	アビスパ福岡						九電工	九州電力キューデンヴォルテクス(ラグビー) コカ・コーラウエストレッドスパークス(ラグビー) ライジング福岡(バスケット)
広島市	広島東洋カープ	サンフレッチェ広島	JTサンダース	湧永製薬 広島メイプルレッズ	広島ガス	コカ・コーラウエストレッドスパークス	NTT西日本	中国電力 中電工 デオデオ	中国電力(卓球)

下線：トップス広島に加盟しているクラブチーム

図2 広島東洋カープ、サンフレッチェ広島の1試合当たり平均観戦者数の推移
(市内開催の公式戦における平均観戦者数)

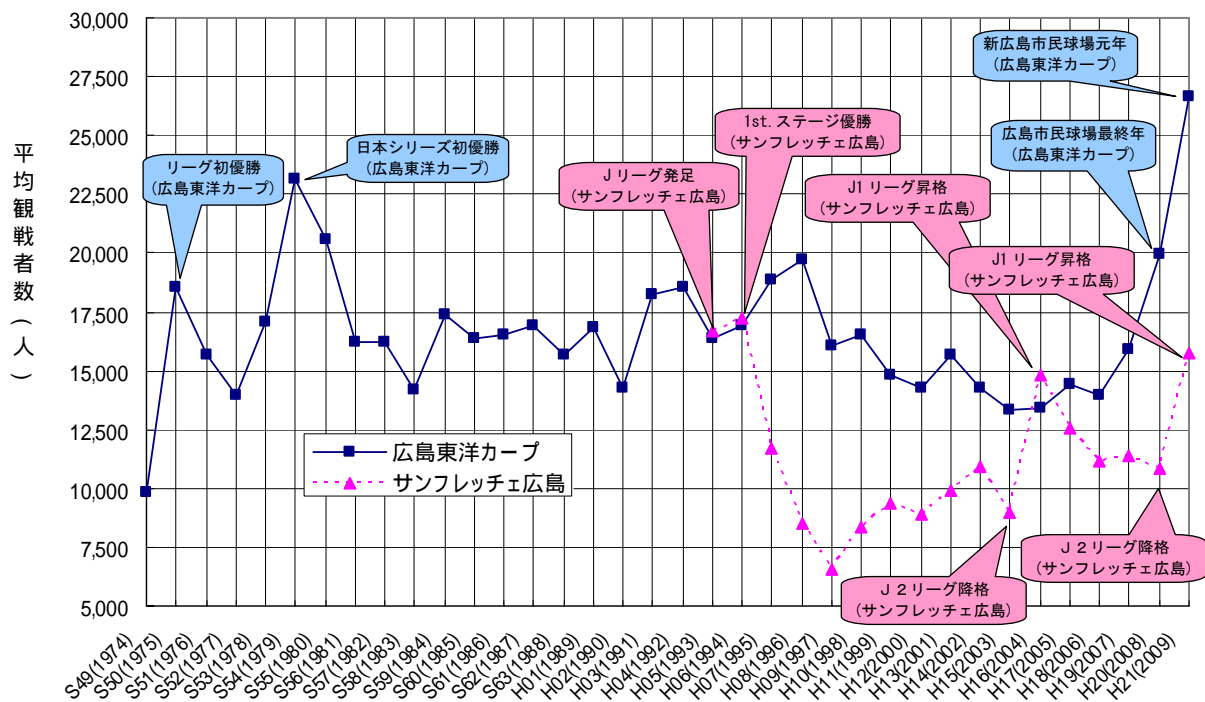


表10 トップス広島(サンフレッチェ広島、広島東洋カープを除く)の1試合当たり平均観戦者数の推移

区 分	平均観戦者数(人)		
	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成21年度 (2009年度)
J Tサンダーズ	3,748	3,790	3,465
湧永製薬ハンドボール部	737	933	641
広島メイプルレッズ	548	501	483
広島ガスバドミントン部	1,150	1,100	-
N T T西日本ソフトテニスクラブ	1,020	1,000	1,167
コカ・コーラウエストレッドスパークス ホッケー部	452	633	716

日本リーグの地元開催試合なし

3 広島市のスポーツ振興における課題

以上のような社会環境の変化や広島市のスポーツの現状を踏まえ、今後のスポーツ振興を図るため、次の課題の解決に取り組む必要があります。

(1) 誰もが気軽に参加できるスポーツの振興

子どもから高齢者、障害者など幅広い市民を対象とした気軽にスポーツに親しむための動機づけが必要です。

個人の健康や体力、ニーズに応じてスポーツを誰もが楽しく続けることのできる環境づくりが必要です。

子どもが積極的に運動・スポーツに親しむ習慣や意欲を培うことにより、子どもの体力や運動能力等の向上を図る必要があります。

地域コミュニティの活性化に向けて、人と人がふれあい、絆を深めることができるよう、様々なスポーツの機会を創出する必要があります。

(2) ジュニア層を中心とした競技力の向上

スポーツ人口のすそ野の拡大や競技力の底上げを図り、全国規模の大会で活躍するジュニア選手を育成する必要があります。

(3) トップレベルのスポーツの振興

トップレベルのスポーツチームがさらに活躍できるよう、チーム活動を支援する必要があります。

国際的・全国的なスポーツ大会等においてトップレベル選手のハイレベルなプレーを観たり、感じたりできる機会を創出するとともに、広島市を舞台に活躍するトップレベルのスポーツチームを市民と一緒に盛り上げていく必要があります。

第3章 基本理念とその実現に向けて

1 基本理念

新しい「スポーツ王国広島」を目指して

～スポーツが好き 仲間が好き 広島が好き～

これまで、様々なスポーツ振興施策の推進を図ってきた中、「スポーツ王国広島」は競技力の向上が達成された姿としてイメージされてきました。

今日の広島市のスポーツの現状や課題、成果を踏まえ、今後はスポーツ振興を担う組織間で連携・協働し、施策の一体的な展開に取り組む必要があります。

こうした点を主眼に置き、本計画では、「スポーツ・フォア・オール」の理念にのっとり、子どもから高齢者、障害者や健常者、初心者からトップアスリートまですべての市民が様々なスポーツにかかわり、生きがいを感じることができる明るく活気あふれる平和なまちづくりに取り組むことにより、スポーツや仲間、広島が好きな市民の笑顔であふれる新しい「スポーツ王国広島」を目指します。

スポーツ・フォア・オール：

1975年にヨーロッパスポーツ担当大臣会議で採択された「みんなのスポーツ憲章」に由来する。スポーツは人間性や社会の発展に必要な要素であり、スポーツをすることは人間の権利であるという理念。

2 基本方針及び目標年度の数値目標

基本理念の実現に向けて、次の(1)～(4)に掲げる四つの基本方針の下、施策の推進に取り組めます。また、基本方針ごとに取組の成果を測るため、目標年度（平成32年度(2020年度)）における数値目標を設定します。

(1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、それぞれの体力や技術、興味や目的に応じて、気軽にスポーツを楽しむことができるよう、市民が気軽にスポーツに親しむ機会の提供と環境づくり、健康づくり・体力づくりや地域コミュニティの活性化に向けたスポーツの振興などにより、地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興を図ります。

数値目標	週1回以上スポーツをする市民（20歳以上）の割合を3人に2人（65.0%）以上にします。
------	--

(2) 学校における体育・スポーツの充実

子どもが積極的に運動・スポーツに親しむことができるよう、学校の体育授業や運動部活動の充実、スポーツ環境の整備などにより、学校における体育・スポーツの充実を図ります。

数値目標	新体力テストの結果で広島市の平均値が全国の平均値以上となっている項目数の割合を50.0%以上にします。
------	---

(3) 競技力の向上

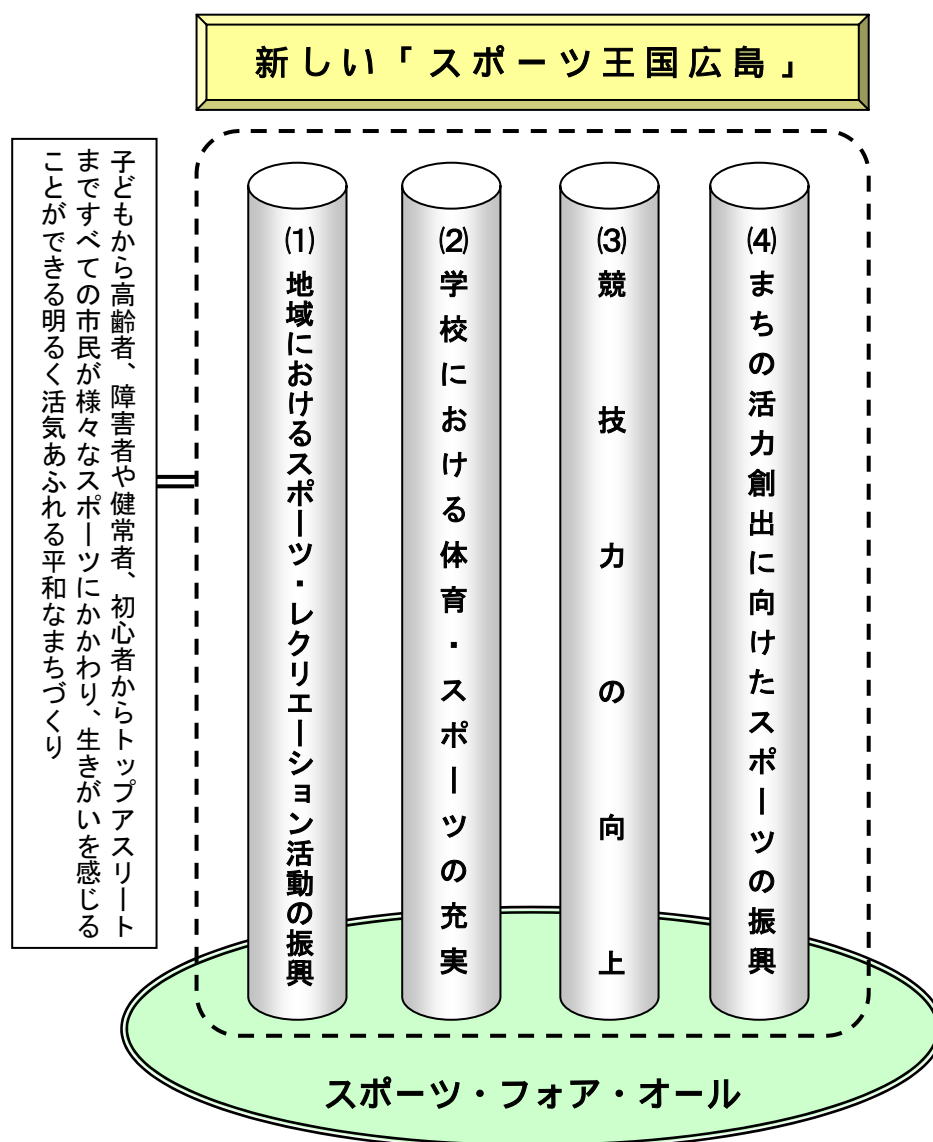
広島市出身のスポーツ選手が全国規模のスポーツ大会で活躍できるよう、ジュニア選手の育成・強化や優秀な指導者の養成・確保などにより、競技力の向上を図ります。

数値目標	国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手の割合を50.0%以上にします。
------	---

(4) まちの活力創出に向けたスポーツの振興

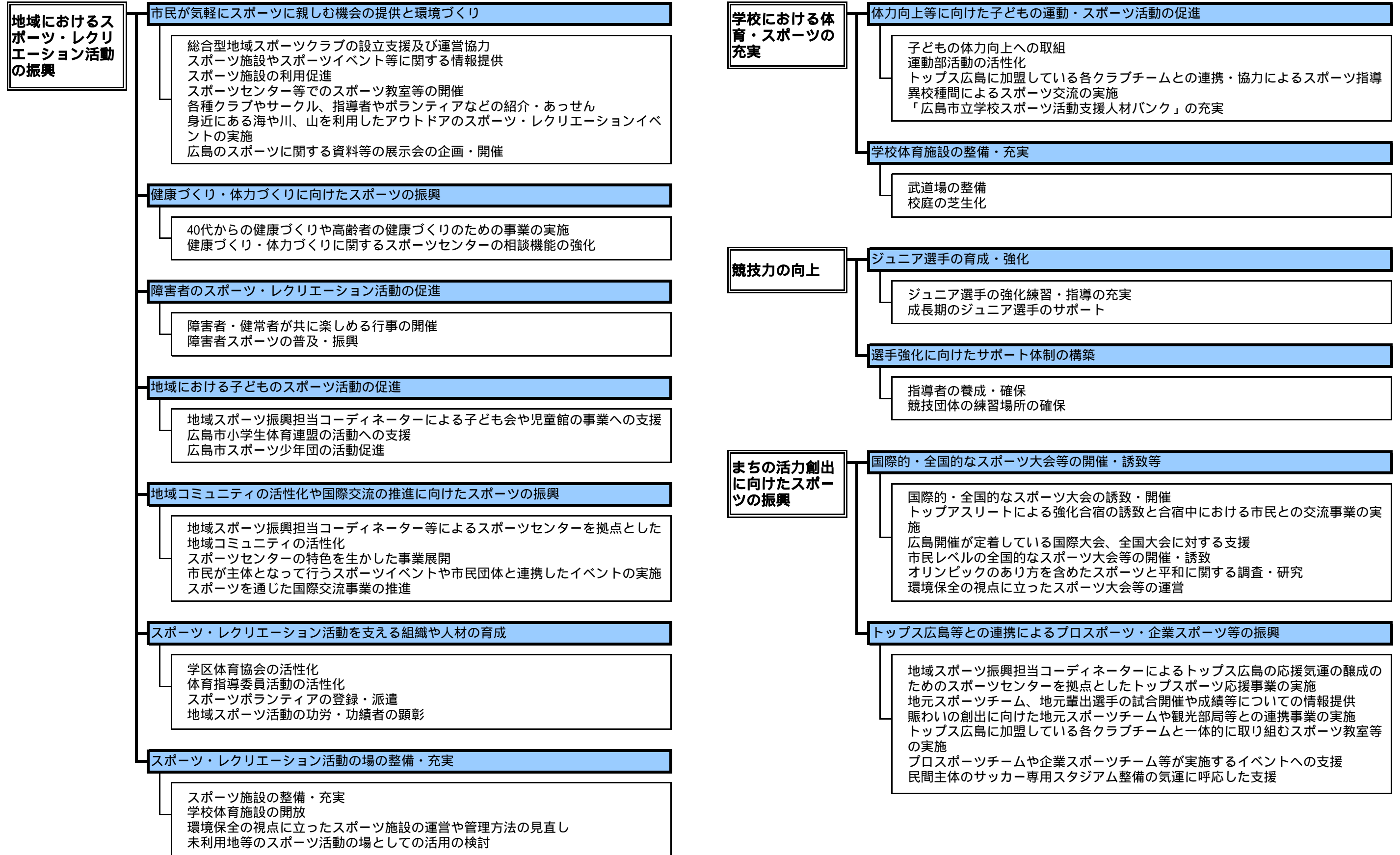
市民のスポーツに対する関心や興味を高め、まちの賑わいを創出することができるよう、国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致やトップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興などにより、まちの活力創出に向けたスポーツの振興を図ります。

数値目標	トップス広島に加盟するチームの試合を年1回以上会場で観戦した市民の割合を50.0%以上にします。
------	--



第4章 推進施策

1 施策の体系



2 施策の内容

(1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

ア 市民が気軽にスポーツに親しむ機会の提供と環境づくり

(7) 総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力

市民の誰もがスポーツに親しむことができるよう、「スポーツ・フォア・オール（みんなのスポーツ）」の視点に立ち、地域スポーツ振興担当コーディネーターや体育指導委員が連携して、学区体育協会を中心とする広島の風土に適した総合型地域スポーツクラブの設立を促進します。

既設立クラブに対し、より多くの市民が参加できるよう、必要に応じてクラブ運営に関する指導・助言を行います。

(イ) スポーツ施設やスポーツイベント等に関する情報提供

広島市や広島市スポーツ協会の広報媒体を活用し、市民のニーズを的確に把握した情報提供を行うとともに、ICTを活用したスポーツに関する総合的な情報提供に取り組みます。

(ウ) スポーツ施設の利用促進

スポーツセンターについて、ロビー等の空きスペースの有効活用や地域諸団体等と連携した託児サービスなどにより、スポーツ活動のみならず地域コミュニケーションの場としての機能も有する地域スポーツの拠点施設を目指します。

インターネットを利用した施設予約システムについて検討します。

スポーツ施設を拠点に市民が自主的にクラブやサークルを新設できるよう、指導・助言等を行います。

(エ) スポーツセンター等でのスポーツ教室等の開催

様々なスポーツニーズや技能レベルに応じ、多様なスポーツ教室等を開催します。

幼児のための運動教室やシニア層を対象とした介護予防教室等の利用者ニーズに沿った教室をはじめ、継続的な利用につなげるための体験教室など事業の拡充を図ります。

(オ) 各種クラブやサークル、指導者やボランティアなどの紹介・あっせん

各種クラブやサークル、指導者やボランティアなどの紹介・あっせんについて、スポーツセンターにおけるスポーツ相談事業を充実するとともに、誰もが簡単に情報を入手できるようスポーツセンターへの掲示、広島市や広島市スポーツ協会等のホームページへの掲載などにより、紹介・あっせんに関する情報提供の充実に取り組みます。

スポーツ活動やスポーツイベントをサポートする指導者やボランティアなどの登録、紹介・あっせんの一貫した取組を行います。

(カ) 身近にある海や川、山を利用したアウトドアのスポーツ・レクリエーションイベントの実施

四季折々の自然を楽しめるよう、関係団体と連携し、年間を通じた積極的なイベントの開催に努めます。

各区の身近な自然を楽しめるウォーキングマップ等の作成・普及に取り組みます。

海や川、山を利用したアウトドアのスポーツ・レクリエーションやイベントの効果的なPRを行います。

(※) 広島にスポーツに関する資料等の展示会の企画・開催

競技団体等と連携し、広島にゆかりのあるスポーツ選手、チーム、競技などに関する資料等を収集し、広島市が主催するイベントなどにおいて展示会を企画します。

イ 健康づくり・体力づくりに向けたスポーツの振興

(7) 40代からの健康づくりや高齢者の健康づくりのための事業の実施

メタボリックシンドローム予防対策事業や運動・栄養による健康増進に関する相談活動等の40代からの健康づくり事業を実施します。

健康ウォーキングや健康体操等の指導を行うアクティブシニア健康増進リーダーを養成するとともに、広島市老人クラブ連合会や社会福祉協議会等と連携・協力し、高齢者の健康づくり・体力づくりのための事業を実施します。

市民が日常的にスポーツに取り組む動機づけとなるよう、ウォーキングやジョギング等の取組状況に応じた顕彰制度を設けます。

健康づくり・体力づくりに関する市民への情報提供などについて、民間スポーツクラブとの連携を検討します。

(4) 健康づくり・体力づくりに関するスポーツセンターの相談機能の強化

スポーツセンターにおけるスポーツプログラマーや健康運動指導士等の有資格者の配置を促進します。

保健センターや健康づくりセンター等の各種保健医療関係機関・団体と連携した医事・栄養相談活動を行うなど、健康づくり・体力づくりに関するスポーツセンターの相談機能を強化します。

ウ 障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進

(7) 障害者・健常者が共に楽しめる行事の開催

広島市心身障害者福祉センターが実施するスポーツ行事等の充実を図るとともに、ひろしま国際平和マラソンの車椅子種目を引き続き実施します。

障害者・健常者が共に楽しむことができるよう、区民スポーツ大会、スポーツ・レクリエーションフェスティバル等の内容を検討するとともに、広島市障害者スポーツ協会やスポーツ団体等と連携して行事の開催に必要なボランティアの育成や活動場所の拡大などを検討します。

(4) 障害者スポーツの普及・振興

車椅子バスケットボール、シッティングバレーボールなどの各種障害者スポーツ大会やスポーツ教室を広島広域公園、広島市心身障害者福祉センター等において引き続き開催するとともに、市内の福祉専門学校の生徒や大学生による障害者スポーツ大会等でのボランティア活動を促進します。

障害者団体等のニーズに基づき、地域で障害者向けのフィットネス体操やスポーツの実技指導等を行うとともに、健康づくりに関する相談・啓発を行います。

小・中学校や関係団体との連携により、障害者スポーツの理解を促す方法や介

助者の拡大、ボランティアの育成や指導者の養成、障害者スポーツの活動場所の拡大など障害者がスポーツに親しみやすい環境づくりについて検討します。

エ 地域における子どものスポーツ活動の促進

(7) 地域スポーツ振興担当コーディネーターによる子ども会や児童館の事業への支援

子ども会や児童館で実施している体操やニュースポーツ、公民館まつり等のイベントで実施する体力測定など団体や施設が地域の子どもの対象に実施する事業の指導者に対し、地域スポーツ振興担当コーディネーターによる指導等の支援を行います。

(イ) 広島市小学生体育連盟の活動への支援

広島市小学生体育連盟が実施するスポーツ教室等に対する助成を行います。

広島市小学生体育連盟等と連携し、競技団体からの外部指導者の招へいやトップス広島の選手との交流事業など、地域における子どものスポーツ活動を充実させるための取組を検討します。

(ウ) 広島市スポーツ少年団の活動促進

広島市スポーツ少年団活動に対する保護者等の理解を促進するための広報に取り組みます。

子どもたちがスポーツボランティアとして活動し、スポーツを支える人材としても育つよう、広島市スポーツ少年団の活動の幅を広げる取組を促進します。

オ 地域コミュニティの活性化や国際交流の推進に向けたスポーツの振興

(7) 地域スポーツ振興担当コーディネーター等によるスポーツセンターを拠点とした地域コミュニティの活性化

地域スポーツ振興担当コーディネーターや体育指導委員が、地域団体の主催事業の円滑な運営や地域住民のスポーツ活動の促進に向けた指導・助言を行うとともに、スポーツセンターにおけるイベント等へ多くの市民が参加し異年齢・世代間の交流が盛んになるよう取り組むことにより、地域コミュニティの活性化を図ります。

(イ) スポーツセンターの特色を生かした事業展開

競技団体と連携し、アジア競技大会や国民体育大会の開催に向けて整備した特定競技種目の設備やその活用ノウハウ等を生かした事業を推進します。

地域スポーツ振興担当コーディネーターや体育指導委員が中心となり、地域団体や公民館等各機関と連携し、地域のニーズを掘り起こしながら、地域の特色となる事業を検討します。

(ウ) 市民が主体となって行うスポーツイベントや市民団体と連携したイベントの実施

スポーツ・レクリエーションフェスティバルや区民スポーツ大会等の市民が主体となって行うスポーツイベントを引き続き開催するとともに、イベント開催時のアンケートにより参加者のニーズを把握し、誰でも気軽に参加できる内容を検討します。

学生ボランティア組織等の市民団体と企画段階から連携したスポーツイベントを開催します。

(E) スポーツを通じた国際交流事業の推進

競技力向上や国際理解教育、平和に関する取組を取り入れながら、姉妹・友好都市との青少年によるスポーツ交流事業を一層推進するとともに、スポーツ少年団のスポーツ交流やシェイク ファハド広島・アジア青少年スポーツ交流事業を推進します。

競技団体等が主催する国際大会等でのスポーツ交流事業を支援します。

カ スポーツ・レクリエーション活動を支える組織や人材の育成

(7) 学区体育協会の活性化

学区体育協会が地域スポーツ活動の中心的団体として組織基盤強化を図ることができるよう、地域スポーツ振興担当コーディネーターや体育指導委員が連携し、地域住民のニーズを把握するとともに、より多くの市民が参加できる組織のあり方や事業内容の検討を促進します。

(4) 体育指導委員活動の活性化

体育指導委員の研修会や地域スポーツ振興担当コーディネーターとの意見交換会を開催するとともに、気軽に体育指導委員を活用できる方策や新たな担い手となる人材を確保する方策について検討を進めることにより、体育指導委員活動の活性化に取り組みます。

市民に対して体育指導委員の認知度が高まるよう、新たに広島市ホームページ等を利用して体育指導委員の活動を紹介するなど積極的な情報発信に取り組みます。

(5) スポーツボランティアの登録・派遣

市民が実践するスポーツ活動や各種団体が開催するスポーツイベントで活動するスポーツボランティアの活動や登録・派遣制度について積極的に広報を行うとともに、スポーツボランティアの登録・派遣システムの充実を図ります。

(I) 地域スポーツ活動の功労・功績者の顕彰

地域スポーツ団体の組織基盤の強化に繋げるため、地域スポーツ活動に関し功労・功績のあった人を顕彰します。

キ スポーツ・レクリエーション活動の場の整備・充実

(7) スポーツ施設の整備・充実

各スポーツ施設の劣化状況について調査を行い、長期的な改修計画を策定し、その改修計画に基づき老朽化した施設の改修や補修、設備更新を行います。

昭和 56 年の新耐震基準以前に建設されたスポーツ施設の耐震化や大規模空間を有するスポーツ施設の吊り天井の耐震化に取り組みます。

福祉環境整備基準に適合していない設備等を調査し、改修等に取り組むとともに、少年硬式野球を行うことができる施設の整備に取り組みます。

(4) 学校体育施設の開放

学校体育施設が地域住民のスポーツ活動場所の中心となり、より多くの人々が気軽に学校体育施設を利用できるよう、学校体育施設開放事業を推進するとともに、その運営方法・利用条件等の仕組みや広報の充実について検討します。

(ウ) 環境保全の視点に立ったスポーツ施設の運営や管理方法の見直し

環境保全の視点から、プール加温用燃料の使用量の抑制、効率的な暖房設備の使用、ロビー等の照明の消灯などによる省電力化などに引き続き取り組むとともに、スポーツ施設の緑化やスポーツセンター（東区除く）の駐車場有料化などの取組について調査・研究します。

(エ) 未利用地等のスポーツ活動の場としての活用の検討

市民ニーズを踏まえ、市民が未利用地等をスポーツ活動の場として気軽に利用できる方法について検討します。

(2) 学校における体育・スポーツの充実

ア 体力向上等に向けた子どもの運動・スポーツ活動の促進

(7) 子どもの体力向上への取組

小学校における体力向上に向けた取組として、体力向上に向けた様々な取組を行う体力づくりジャンプアップ事業の実施、「子どもの体力向上支援委員会」の運営、体力づくり推進モデル校の指定などを行います。

また、中学校を見据え、運動領域ごとに指導内容を低・中・高学年の枠組みで系統的にまとめた「小学校体育科実技事例集」を各小学校に配布し、体育科の授業の充実を図ります。

中学校における体力向上に向けた取組として、体力優秀賞の交付、中学校体育大会への派遣の補助、体育大会の開催等に取り組みます。

また、運動プログラムや運動プログラムの活用例をまとめた「体力アップ実技事例集」を各中学校に配布し、その普及を図ります。

(8) 運動部活動の活性化

生徒の多様なスポーツニーズに応じた活動を保障するとともに、運動部の顧問教諭の指導力の向上を図るため、専門的技術指導力を備えた地域のスポーツ経験者を各校へ派遣します。

運動部活動を指導する教員と外部指導者との専門的な技術指導法についての情報交換を一層充実します。

(9) トップス広島に加盟している各クラブチームとの連携・協力によるスポーツ指導

トップス広島に加盟している各クラブチームと連携し、小学校にプロ選手や企業の一流選手等を招へいすることにより、児童が国内トップレベルのプレーにふれ、一緒に競技を行える機会を提供し、児童のスポーツに対する関心や意欲の高揚を図ります。

トップス広島に加盟している各クラブチームの指導者や選手を中学校へ招へいし、運動部の指導者を対象とした指導者養成研修会や選手と生徒の交流事業を実施します。

(10) 異校種間によるスポーツ交流の実施

児童の運動やスポーツに対する興味・関心を高めるとともに、運動部活動の活性化を図るため、運動部に所属する中・高校生が小学生を指導するなど異校種間によるスポーツ交流を実施します。

(11) 「広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」の充実

体育科の授業の充実や運動部活動の活性化を図るため、登録人数を増やすなど「広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」を充実します。

イ 学校体育施設の整備・充実

(7) 武道場の整備

武道指導の充実を図るため、中学校の新設、校舎の改修に併せて計画的に武道場を整備します。

(イ) 校庭の芝生化

快適な教育環境の確保に向けた校庭の芝生化について検討します。

(3) 競技力の向上

ア ジュニア選手の育成・強化

(7) ジュニア選手の強化練習・指導の充実

競技団体と学校運動部等の連携により、素質・能力のあるジュニア選手を発掘するとともに、強化合宿の開催や遠征等の競技力向上対策事業を実施します。

より多くのジュニア選手が将来国民体育大会等の全国規模の大会で活躍できるよう、競技団体、広島市中学校体育連盟、広島市小学生体育連盟等の関係団体と連携し、小学生から高校生までの一貫した指導ができる体制の構築に取り組みます。

(イ) 成長期のジュニア選手のサポート

学校運動部、広島市スポーツ少年団、競技団体と医療機関との連携を促進し、国民体育大会を目指すジュニア選手を対象としたメディカルチェック等を実施するとともに、小・中・高校生の指導者を対象としたスポーツ障害や栄養指導に関する講習会等の開催を検討します。

広島県医師会等の関係団体と連携し、国民体育大会等で活躍する選手の育成・強化に向けた継続的なサポート体制を検討します。

イ 選手強化に向けたサポート体制の構築

(7) 指導者の養成・確保

競技別指導者養成講習会等を実施するとともに、ホームページ等を活用し、財団法人日本体育協会や中央競技団体等が実施する指導者養成制度を利用した指導者資格取得を促進します。

小学生から高校生までの一貫した指導体制の構築に向け、小・中・高校生の指導者による合同研修会など指導者の養成・確保策を検討するとともに、指導者が地域で円滑に活動することができる体制を検討します。

(イ) 競技団体の練習場所の確保

競技団体の練習場所としてスポーツセンター等の休館日や開館時間外を効率的に活用するよう、利用調整や受入体制の充実を図ります。

(4) まちの活力創出に向けたスポーツの振興

ア 国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致等

(7) 国際的・全国的なスポーツ大会の誘致・開催

「JOCパートナー都市協定」を活用するなど関係機関や競技団体との連携により、国際的・全国的なスポーツ大会を誘致・開催するとともに、観光部局等との連携により、広島で大会を開催するメリットなどの効果的なPRや受入体制の充実について検討し、より積極的な誘致活動を展開します。

(イ) トップアスリートによる強化合宿の誘致と合宿中における市民との交流事業の実施

「JOCパートナー都市協定」を活用するなど関係機関や競技団体との連携により、国内外ナショナルチームの合宿・練習を誘致するとともに、観光部局等との連携により、広島で合宿を行うメリットなどの効果的なPRや受入体制の充実について検討し、より積極的な誘致活動を展開します。

2022年FIFAワールドカップチームベースキャンプの誘致に向けて、受入体制の整備を行うとともに、気運の醸成を図ります。

合宿中におけるトップスポーツ選手と地元選手との合同練習会や市民との交流事業を実施します。

(ウ) 広島開催が定着している国際大会、全国大会に対する支援

ヒロシマ国際ハンドボール大会や天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会等の国際大会、全国大会について、大会開催効果がより発揮されるよう、大会への補助金の交付、広島市のホームページや広報紙による大会PR、ボランティアの活用促進など必要な支援を行います。

(エ) 市民レベルの全国的なスポーツ大会等の開催・誘致

既存の市民参加型の全国大会を調査し、誘致に向けた働きかけとPR活動を展開します。

ひろしま国際平和マラソンについて、平和を実感できるよう、平和大通りをスタート・ゴールとすることやフルマラソン化の検討を行います。

(オ) オリンピックのあり方を含めたスポーツと平和に関する調査・研究

オリンピック本来の平和の祭典としてのあり方やスポーツを通じて世界恒久平和を訴える事業の実施について調査・研究します。

(カ) 環境保全の視点に立ったスポーツ大会等の運営

スポーツ大会開催時におけるペーパーレス化や公共交通機関の利用促進、ゴミの分別収集やエコリサイクルマーケットの実施など環境に配慮したスポーツ大会等の運営に努めるとともに、各競技団体へも環境保全の視点に立った大会等の運営を呼び掛けます。

イ トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興

(7) 地域スポーツ振興担当コーディネーターによるトップス広島の応援気運の醸成のためのスポーツセンターを拠点としたトップスポーツ応援事業の実施

トップス広島情報コーナーの設置などスポーツセンターを拠点としたトップスポーツ応援事業を実施します。

地域スポーツ振興担当コーディネーターが学区体育団体各区連合会等地域団体と連携し、地域に拠点を置くチームへの重点的な応援を各区で実施する中で、各

区単位での市民応援体制の確立に取り組みます。

(イ) **地元スポーツチーム、地元輩出選手の試合開催や成績等についての情報提供**

広島市や広島市スポーツ協会の広報媒体を活用し、トップス広島をはじめとする地元スポーツチーム、地元輩出選手の試合開催や成績等についての情報提供を行います。

スポーツセンターやスポーツイベントでのトップス広島情報コーナーの設置のほか、公共施設でトップス広島のポスターやチラシの掲示・配布を行います。

(ウ) **賑わいの創出に向けた地元スポーツチームや観光部局等との連携事業の実施**

観光部局等との連携により、トップス広島を中心とした地元で活躍するスポーツチームを貴重な観光資源として活用し、観光振興やまちの活力創出につながる事業を展開するとともに、地元スポーツチームと地元商店街等がタイアップした事業を検討し、まちの活性化につなげていきます。

(エ) **トップス広島に加盟している各クラブチームと一体的に取り組むスポーツ教室等の実施**

学校や地域スポーツ団体と連携し、トップス広島に加盟している各クラブチームを招いて行うスポーツ教室、クリニック等のトップススポーツ連携事業や学校運動部員等とトップス広島の各チームとの合同練習など、トップス広島と市民の双方に有意義な事業を実施します。

また、こうした事業をトップス広島に加盟している各クラブチームのイベント等に合わせて実施するなど効果的な実施方法を検討します。

ジュニア選手の競技力の向上のため、競技ごとに各学校の運動部から選抜した部員とトップス広島の各チームとの合同練習の実施や各チームの指導者・OBによる学校運動部員等への指導が行える仕組みづくりを検討します。

(オ) **プロスポーツチームや企業スポーツチーム等が実施するイベントへの支援**

トップス広島加盟チーム等が実施するイベントについて、PRや運営協力を行うなど、イベントが円滑に運営され、成功するよう支援します。

(カ) **民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応した支援**

民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応して、必要な支援に取り組みます。

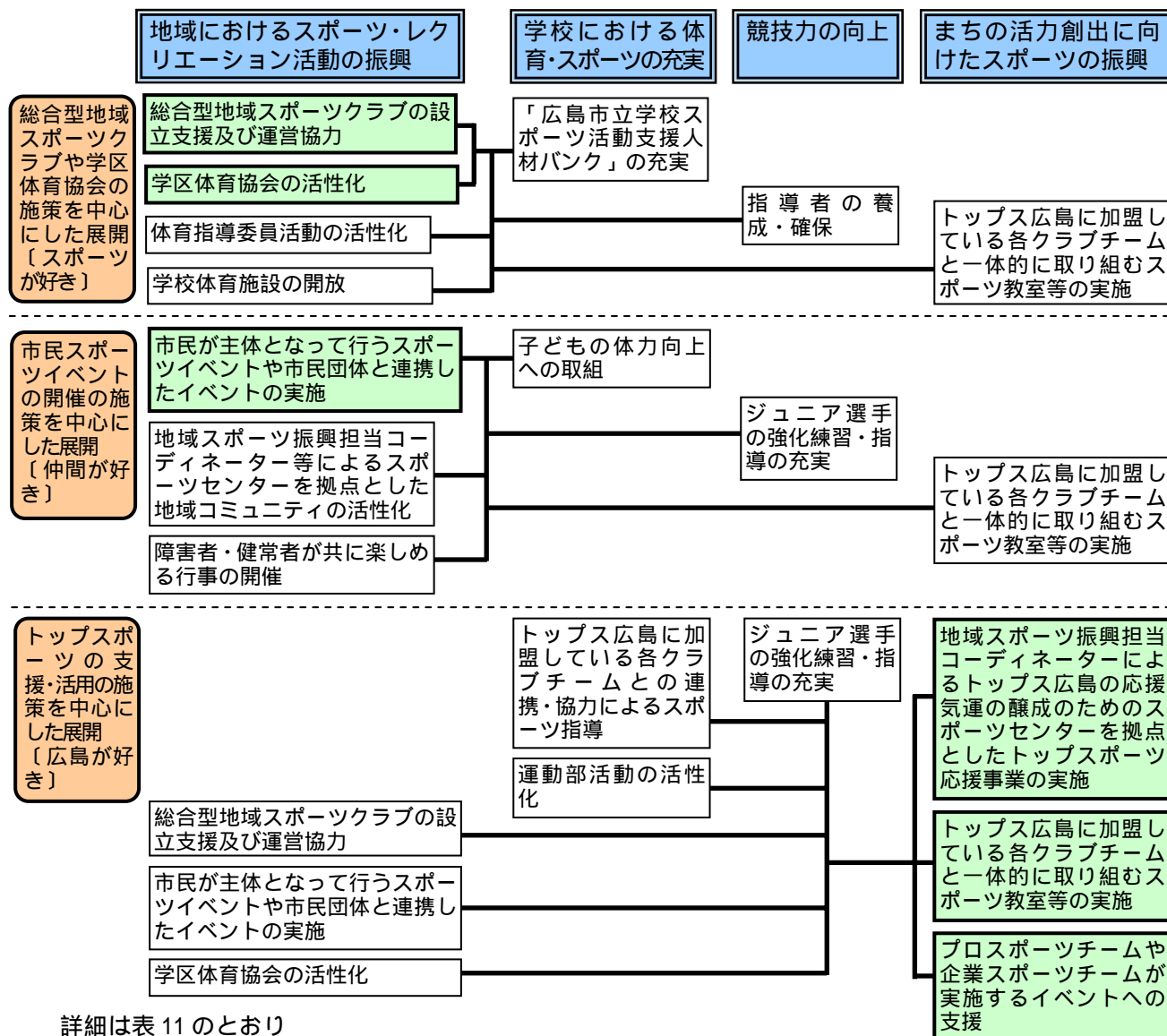
第5章 計画の推進

1 スポーツ振興を担う組織間の連携・協働による施策の一体的な展開

スポーツ振興に関する取組は、これまで地域スポーツは学区体育協会や体育指導委員が、学校における体育・スポーツは教育委員会が、競技力の向上は競技団体が、トップスポーツの振興は企業やスポーツ団体が主として取り組んできました。

今後は、スポーツ振興を担う組織が分野の枠を超えて相互に連携・協働して取り組むとともに、人材の好循環を生み出す中で、個々の施策をできる限り相互に関連付けて一体的に展開し、相乗効果を高めます。

【施策の展開イメージ】



2 スポーツ振興審議会を通じた計画の実効性の確保

施策の検討・実施状況についてスポーツ振興審議会へ報告し、同審議会において課題や問題点のチェック等による計画の進ちょく状況の評価や改善方策の検討などを行うことにより、計画の実効性を確保します。

表 11 施策の展開イメージ

施策展開の内容		関連施策			
		地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興	学校における体育・スポーツの充実	競技力の向上	まちの活力創出に向けたスポーツの振興
スポーツが好き	<p>総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力や学区体育協会の活性化について、体育指導委員や活動場所としての学校体育施設を活用することにより、体育指導委員活動の活性化や学校体育施設開放事業の推進を図ります。</p> <p>また、指導者として「広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」への登録者、競技力の向上のために養成・確保した指導者、トップス広島に加盟している各クラブチームの選手やコーチを活用することにより、トップスポーツの応援気運の醸成や能力ある人材の発掘につなげます。</p>	<p>総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力 学区体育協会の活性化 体育指導委員活動の活性化 学校体育施設の開放</p>	<p>「広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」の充実</p>	<p>指導者の養成・確保</p>	<p>トップス広島に加盟している各クラブチームと一体的に取り組むスポーツ教室等の実施</p>
仲間が好き	<p>市民が主体となって行うスポーツイベントや市民団体と連携したイベントの実施について、地域スポーツ振興担当コーディネーターや広島市障害者スポーツ協会等の関係者が連携して取り組むことにより、スポーツセンターを拠点とする地域コミュニティの活性化や障害者と健常者が交流することのできるイベントなどを推進します。</p> <p>また、イベントの企画に当たって、学校や競技団体との連携により、子どもが仲間と楽しみながら体力を向上させ、競技スポーツに親しむことができる内容を検討する中で、子どもの体力向上やジュニア選手の発掘につなげていきます。</p> <p>さらに、市民団体と連携したイベントの中で、トップアスリートと市民との交流事業を実施することにより、トップスポーツの応援気運の醸成につなげます。</p>	<p>市民が主体となって行うスポーツイベントや市民団体と連携したイベントの実施 地域スポーツ振興担当コーディネーター等によるスポーツセンターを拠点とした地域コミュニティの活性化 障害者・健常者が共に楽しめる行事の開催</p>	<p>子どもの体力向上への取組</p>	<p>ジュニア選手の強化練習・指導の充実</p>	<p>トップス広島に加盟している各クラブチームと一体的に取り組むスポーツ教室等の実施</p>
広島が好き	<p>トップス広島に加盟している各クラブチームと一体的に取り組むスポーツ教室等の実施やトップスポーツ応援事業の実施について、地域スポーツ団体や学校、競技団体と連携した取組とする中で、地域スポーツ活動や学校運動部活動の活性化、ジュニア選手の育成・強化につなげていきます。</p>	<p>総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力 市民が主体となって行うスポーツイベントや市民団体と連携したイベントの実施 学区体育協会の活性化</p>	<p>トップス広島に加盟している各クラブチームとの連携・協力によるスポーツ指導運動部活動の活性化</p>	<p>ジュニア選手の強化練習・指導の充実</p>	<p>地域スポーツ振興担当コーディネーターによるトップス広島の応援気運の醸成のためのスポーツセンターを拠点としたトップスポーツ応援事業の実施 トップス広島に加盟している各クラブチームと一体的に取り組むスポーツ教室等の実施 プロスポーツチームや企業スポーツチームが実施するイベントへの支援</p>